

# 文芸

## 俳句

りら冷えや電車の椅子に忘れ傘  
池田 逸子

電磁波の唸り卵の花腐しかな  
伊藤 敬子

紫陽花も一役果たす道しるべ  
伊藤 定男

初鯉夫に上身吾中落ち  
今関満喜子

思い出といっしょに引き出す更衣  
魚地 照子

老鶯の調べ云調風渡る  
江森 悦子

青嵐不作の予感雲走る  
川島 孝夫

七変化九十の母には嘘少し  
川島 通則

山辺の里は一面青田かな  
向後 寛

軽鴨の番い水尾引く夕明かり  
越川せつ子

青嵐余生吹き上げ髪乱す  
小松 藤男

藁葺きの厨房もあり牡丹園  
佐瀬 輝夫

山藤や紫竜の如く山を這ひ  
宍倉 道子

紫陽花は晴雨重ねて花期長し  
鈴木とし子

あじさいや側に千されし傘幾つ  
鈴木 利子

児を背負ひ棚田植えゆく農婦かな  
玉虫 栗扇

紫陽花の雫光りて夕菫  
土屋美枝子

古は学びの寺や濃あぢさゐ  
土屋 義昭

友と行く茂りの中の図書館へ  
戸村 静華

道の駅あじさいロード町おこし  
西崎さち子

夏の夜の夢は宇宙を翔けめぐり  
早川 勇

## 短歌

今日も又歩ける幸やしみじみと  
緑濃き野を友と語りつ  
高梨 キヨ

紫陽花の色づき初めし朝の径  
誰も通らぬ空気を吸いて  
土屋 好

長寿会名簿を見ては驚きぬ  
吾が名簿順の上る寂しさ  
鈴木 益郎

.....

剥き割りしそら豆の莢ほの温く  
柔毛はしかと実を抱きあたり  
佐瀬 初音

逝きし犬の着てあし服の裏側に  
和毛残りしはし類寄す  
八角 三枝

雛髻粟の原に射す日は一瞬に  
花色深むマジックの様  
西山満里子

ブルーベリーの葉先に光る水玉を  
水晶に似ると眺めぬにけり  
池田 春江

幼稚園に慣れしか孫は帰りきて  
友の名前を幾人も言ふ  
押尾 輝子

宿直の明けて帰りて真つ先に  
家中の窓開け放ちたり  
田崎 尚美

海風を受けて咲きふるネモフィラ  
丘一面を青に染めあつ  
鈴木まさ子

きっぱりと短歌の記載断るに  
「お金ですか」と蔑みを受く  
青木 秀子

新緑の中を泳げる鯉のぼり  
五月の風に波打ちあたり  
平山 芳子

桜草僅かの風に揺れゆれ  
エールを送り来るがにゆるる  
吉岡 信子

降る雨に推の若葉は色あせて  
山の傾りに緑あざやか  
芹川 初子

壇上て赴任の挨拶四百の  
児等の瞳の輝き見つ  
島田ますみ

総の野に翻りつぐ鯉幟  
病み篤き弟の病室より見ゆる  
斉藤つね子

## こうほう博物館 28

### 湿原のチドリ

真夏が近づくころ、篠本の湿原には、穂を立てたように咲く純白の花が見られます。この花はミズチドリと呼ばれる、ラン科ツレサギソウ属の野生ランで、湿原に生え、全国的に分布しています。背丈が一メートル近くまで伸び、その先に二十〜三十輪、純白で一センチ足らずの千鳥が羽ばたくような花が咲きます。

辺ではあまり見られない湿原の花が咲きます。そしてこれらはどちらかというと、高原の湿地（高層湿原）によく見られる花です。ミズチドリも全国的に分布するといいましたが、図鑑で調べると大陸のシベリアまで広がるこのこと。そうしてみるとこの篠本の湿原は、氷河時代の名残を示したところとも考えられます。そのような氷河時代の名残を見せる湿原は、この地域には貴重な存在で、保護しなければと思います。

ちなみにミズチドリなどの花は、坂田池公園内の湿生植物園でも見ることが出来ます。



▶湿原に咲くミズチドリ